

第 1 回 宇部市新庁舎建設基本設計協議会 ～会議録～

日 時	平成 29 年 12 月 4 日（月）18:00～20:15	
場 所	宇部市役所 4 階 第 3・4 委員会室	
出席者	【協議会委員】	内田会長、脇副会長、安部委員、徳原委員、熊谷委員、曾我委員 古松委員、三浦委員、近藤委員
	【宇部市】	久保田市長 ※他の公務の為、途中退席 (都市整備部) 白石部長、坂本次長、小森次長 (まちなか再生推進課) 富田課長、上原主幹、三戸補佐、深川係長

1. 市長あいさつ、委員紹介、会長・副会長の専任について

※会長として、宇部市本庁舎建設検討市民委員会委員長の内田文雄氏、副会長に(株)宇部日報社の協和也氏を選任。

～会長・副会長あいさつ～（以下、要約）

【会長】	<p>平成 24 年から本格的な検討が始まって以来、様々な意見を集約してきたが、市庁舎建設に対しては、まだ市民の方々の理解が十分ではないということも聞かれる。そのため、議論の内容を可能な限り透明化していくということが重要と考えている。</p> <p>市民が自分の家を建てるように市役所の建て替えを考えてくれるよう、色々な意見を集約しながら進めていきたい。建設した後になって「こんなはずではなかった」とならないよう、皆さんと力を合わせて検討していきたい。</p> <p>他市にも誇れる、市民皆が頼りにするような市役所ができればいいと思っている。</p>
【副会長】	<p>宇部市の市庁舎建設の取組みについては、他市の例と比べると比較的円滑に進んでいると感じている。</p> <p>一方で、意見を言う人はしっかり言っているが、市民全体に建て替えに関する議論が浸透しておらず、関心が高まっていないことが懸念される。</p> <p>会長がおっしゃったように、建設された後で文句を言う人がたくさんいるのではないかと。そう考えると、今この基本設計のタイミングの議論は非常に重要だと感じる。</p>

2. 協議事項

(1) 新庁舎建設に向けた取り組み（報告）について【資料 1】

【 市 】 別添資料に基づき説明

～質疑応答～（以下、要約）

【委員】	<p>本会議の位置づけは、何かを決定する機関ではなく、広く意見を聴取する場であり、その内容をHP等で公開することで、パブリックコメントの参考とするという理解でよろしいか。</p>
------	---

【市】	市が提案したものに対して意見をいただき、その意見を踏まえパブリックコメントを行う。パブリックコメント実施後は、市民の意見を踏まえ最終的に取りまとめた基本設計案に対しても意見をいただくことを考えている。
【委員】	我々の議論が公にされるとの理解でよろしいか。
【市】	そのとおり。
【委員】	基本計画に引き続き、基本設計の過程でも市民の意見をかなり聞きながら進めてきたが、最終決定までに、より広く、できるだけ様々な方の意見を集約して間違いがないよう方向性を決めていきたいという趣旨と理解した。

(2) 宇部市新庁舎建設基本設計（素案）の概要について【資料2・3】

【市】 別添資料に基づき説明

～質疑応答～（以下、要約）

「計画方針」「建築概要」	
	特になし
「配置計画」「平面計画」	
【委員】	2期庁舎の食堂については、これまで話が出ていなかったと思う。1階に予定されていた喫茶コーナーとの機能の重複や、食堂の位置づけ（職員用なのか市民用なのか）はどう考えているのか。
【市】	食堂は、当初1期庁舎への配置を考えていた職員用食堂を移動させたもの。1期庁舎内のスペース確保が難しかったことと、見晴らしのよい場所に移動することで職員だけでなく市民にも利用してもらえるようにとの理由から2期庁舎屋上に配置した。
【委員】	市民が利用できる食堂なら、1階の方がいいのではないか。
【市】	1期庁舎（1～5階）からのアクセス性を考え、中間にしたらよいと考えたことが3階にした理由の一つ。 もう一つの理由は、災害時に炊き出し機能として使用することを想定し、1期庁舎3階に設置する災害対策本部とのつながりを考えたため。
【委員】	メインエントランスについて、バス停に近い位置にあるのはいいことだが、窓口に行くときには2期庁舎から1期庁舎まで相当の距離がある。 今後の高齢化・ICT化を考えると、来庁者の多くは高齢者ではないかと予想されるが、高齢者にとってはかなりきつい距離であり、バリアフリーの観点から懸念がある。 配置を縮めるわけにはいかず、動く歩道を設置する訳にもいかないだろうが、何かいい知恵はないか。屋内のプロムナードのような、距離を感じさせないデザイン等の配慮ができないか。
【市】	貴重なご意見をいただいた。歩く距離を感じさせない工夫を検討したい。
【委員】	仮設庁舎を作らないことを前提に考えると、配置については他の選択肢がない。そこを踏まえて、いかに工夫できるかがこれからの課題である。

【委員】	今のような議論をするときに、図面にスケールが入っていると、どれくらい歩かなければいけないのかというようなことがわかりやすいので、今後の資料作成の際にはお願いしたい。(他の委員からスケールバーの記載も依頼有)
【委員】	コミュニティバスを車寄せに乗り入れさせる検討はするのか。
【市】	将来的な検討課題と考えている。
【委員】	車寄せ部分にバス停を設けることはできないのか。(常盤通りのバス停をなくすということではなく、別途設けるという意味)
【市】	車寄せ部分は大型バスの回転は困難なため、コミュニティバス程度であれば検討していきたいと考えている。
【委員】	多目的広場の車の出入口と1期庁舎北西側の出入口がかなり近いので、危なくないよう十分な安全対策をしていく必要がある。
【市】	幅員は9m程度あるが、安全対策については今後十分に考えていきたい。
【委員】	市道真締川東通り線は廃止するのか。
【市】	将来的には(真締川公園と)一体的に整備していきたいと考えている。
【委員】	これからの市役所の役目を考えると、中心商店街(常盤通り・新天町・琴芝等)のための目玉となることが大切と思うが、多目的広場は何に使うのか。実際に一年中人を集めることができるのかということに不安がある。WSに参加した際には、ここに道の駅を作ったらどうかと提案したが、その件については、どう考えているか。
【市】	多目的広場は平面駐車場を兼ねており、イベントがない通常時には70台分の駐車場としての使用を考えている。 イベントについては、宇部まつりのワールドキッチン会場等を想定している。道の駅については、今後の検討とさせていただきたい。
【委員】	山口県内の道の駅はどこも皆繁盛している。今までのショッピングセンターに飽きてきて、地産地消が見直されている状況だが、宇部にはそれが無い。成功すれば、市役所を中心とした新しい商業地が生まれると思うので検討してほしい。
【委員】	今回の計画全体で、車いす駐車場は何台分を予定しているか。
【市】	車寄せ部分に5台確保する予定。
【委員】	広いスペースを確保した駐車枠は、車いすの方だけが使うのではなく、高齢者の方等も使いやすいスペースのため、可能であれば5台と言わず、もう少し設けていただければありがたい。
【委員】	議会エリアについて、議場が議会控室より狭いのではという印象がある。議場の傍聴席については、どのような形を考えているか。
【市】	傍聴席については、現庁舎のような高さではなく、1.4m~1.5m程度の高さから見ていただく形で検討している。また、位置については、現在のような後ろ側ではなく、側面(東側)への配置を検討している。 また、その他の議会スペースについては、委員会室や議員控室、議員図書室等を配置する予定。

【委員】	基本理念の中に「議会を身近に感じる庁舎」というコンセプトがあるので、議場について色々工夫をしていただいているという理解をした。
「防災計画」「環境計画」「構造計画」	
【委員】	2期庁舎が総ガラス張りであることについて、ルーバーで日射熱は防げるが、放熱（内部の熱が逃げる）という観点では役に立たないのではないかと。
【市】	ガラス自体は壁よりも熱が逃げる性質があるが、床吹き出しにより人が居る部分（床から2m程度）だけを効率良く空調するシステムによって、トータルでランニングコストを低減することを提案している。
【委員】	暖房の場合は、いくら人の周りだけを空調しても熱は上に逃げるのではないかと。細かい部分は専門家にお任せするが、環境性能でSランクを目指すのに放熱しやすい総ガラス張りを採用というところが疑問。
【委員】	居住域空調という考え方にに基づき、サプライとリターンという空気の回し方を工夫することによって無駄なところに熱がいかないで済むようなしくみの研究が進んでいるため、これにより環境性能Sランクを目指すということだろう。 この件に関しては、システムを含め可能な限りわかりやすく、市民の方にきちんと理解していただけるような資料を作っていただきたい。
【委員】	総ガラス張りについては、防災上の避難場所としても心配がある。
【市】	ガラスについては、安全面も考慮して、強化ガラスを使用する予定である。
【委員】	ジョイント部分に力を逃がす工夫を施すときに、ガラスの方が作りやすいので、コンクリートの壁よりもある意味安全と言えるかもしれないが、その辺りもしっかり研究・検討していただきたい。
【委員】	「防災計画」「環境計画」の図面は免震構造となっているが、「構造システム（耐震、免震等）については比較検討のうえ決定」との注意書きがあるため、まだ決定はしておらず、今後比較検討し決定するとの理解でよいか。
【市】	まだ決定していない。今後市民の皆さんにもわかりやすい資料を提示したうえで、比較検討し決定していきたい。
【委員】	7ページの表にある「中小地震」と「大地震」という言葉は、正確には「建物の耐用年数期間に数回体験する地震（レベル1地震動）」と「数百年に一度しか起こらないような大きな地震（レベル2地震動）」という解釈になる。 しかし、現在の地震活動を見ると南海トラフ地震が近づいており、本来南海トラフ地震は「レベル2地震動（数百年に一度しか起こらない地震）」に相当するが、間違いなく新庁舎の耐用年数期間にやってくるだろうと予測されるため、単純に通常のレベル1・レベル2という考え方をすると間違ったことになるのではと感じている。 そこで、構造の比較検討の際に、入力地震動と応答解析をどのように考えているか伺いたい。
【市】	地震動には国が決めた波形である告示波と近隣の事例を参考に作成する波形であるサイト波があり、サイト波には、断層地震として小郡（宇部東）断層、海溝型地震として南海トラフを用いている。 この告示波とサイト波を応答解析し、建物基礎底面の応答波を算出する。

	<p>簡単に言えば、地震基盤から速度約 3km/s の横揺れが工学的基盤を約 400m/s で通過した後、地表に到達したときにどの程度揺れるかを計算するもの。</p> <p>水平方向の地震動としてまとめた基盤底面の震度を加速度と速度で表したもの。</p>
【委員】	<p>南海トラフ地震と建設場所に対して一番影響が大きいと考えられる宇部東断層を入力地震動として考え、時刻歴応答解析を行う。その結果を比較検討の上、構造形式を決定するとの理解でよいか。</p>
【市】	<p>入力地震動と応答解析については、そのとおり。なお、検討に当たっては、事業費や工期等も踏まえた総合的な比較を行い決定していく予定である。</p>
【委員】	<p>地元業者へお金を回すために、2期庁舎については是非とも耐震でお願いしたい。</p>
【委員】	<p>資料3のP.2アドバイザーの意見の中で、免震が「水平方向にはやわらかく動く。鉛直方向には非常に強い。」と書いてある。水平方向の記述は分かるが、鉛直方向に強いとはどういう意味か。</p>
【市】	<p>水平方向には柔軟に動くが、鉛直方向にはダイレクトに伝わるという意。</p>
【委員】	<p>水平方向には揺れを逃がしてくれるが、鉛直方向にはそのまま直接的に揺れが伝わるため「免震装置」としての機能は期待できないという意味なら理解した。</p>
【委員】	<p>以前講演会で鉛直方向の揺れに対する質問をした。</p> <p>その時は、「免震は構造計算で逃げられるため、鉛直方向の揺れに対して、耐震と比べても座屈は変わらない。」との回答があった。</p> <p>耐震は柱が大きく断面積が大きいですが、免震は部材を小さくするため断面積も小さくなり、比較すると鉛直方向の力に対して座屈する（ひしゃげる）危険性は耐震より免震の方が高いのではないかと考えているが、専門家に構造計算で逃げられるから変わらないと言われると何も言えない。</p>
【委員】	<p>構造計算で逃げることが、どういう意味か分からない。</p>
【委員】	<p>例えば地震で10の力がかかったとき、耐震では10の力が加わるが、免震では基礎には10の力が加わるものの免震装置の上は力が逃げるので10より少なくてもよくなる。</p> <p>地震波について1万通りのシミュレーションを行い上部構造を決める。極論すれば免震と耐震の費用は変わらないという言い方をされた。しかし、そんな言い方をすれば、免震は構造上の考え次第でいくらでも逃げられると思うがその辺りは、どう思われるか。</p>
【委員】	<p>具体的にどうされるかが分からないので、何とも言えないが、確かに免震装置だと上部構造物（柱等）の断面が小さくできると考えられる。</p> <p>しかし、鉛直方向には効果がないため、おっしゃったような危惧は考えられると思う。</p>
【委員】	<p>講演会での高橋先生のお話は、免震の場合は、地震波を解析しながら免震装置があることを前提に全体の構造断面の決定等を行うため、トータルで考えると耐震に比べて高額にならない場合もある。という内容だったと思う。</p>

	今回（必要なこと）は、想定される地震波を入力し、総合的に検討してみて、その結果どうするかということだと思う。
【委員】	予断をもたず、素直にシュミレーションした結果を元に検討を行った上で決定することが大事だと思う。
【委員】	最初から免震ありきではなく、地震発生時に業務が継続できるかという観点と地域の建設業者の事情を総合的に勘案して結果を出してほしいという意見だったと思うので、対応をお願いしたい。 決定までのプロセス（どういう根拠で決めたか）はしっかり開示することをお約束いただいたものと理解した。
【委員】	コージェネレーションシステムと非常用電源システムは同じものか。
【市】	コージェネレーションシステムは都市ガスを燃料に発電し、その時に発生する熱を空調に有効利用するもので、災害時にも同じように機能するため「防災計画」「環境計画」双方に記載した。
【委員】	非常時に3日間の使用を想定しているようだが、ガス管を利用するのか。記述を見ると、配管は大丈夫だろうということを前提にしており、非常に危うい感じがする。
【市】	ガスだけでなく、太陽光発電により水素をつくり、これを燃料にして発電するようなしくみも検討している。
【委員】	ZEBやCASBEEのSランクを目指して、コージェネや水素発電等、様々な知恵を出しながら最適解を求めるため検討している段階であり、結論を出すのは今後の話であると理解した。
「広場計画」	
【委員】	新庁舎が中心市街地のど真ん中にあり、まちづくりの先導的な役割を担ってくれることには大いに期待しているが、ここだけで完結しているように見えるのが気になる。周辺までが変わらなければ、中心市街地に商業者等が進出したい、投資したいと思う空間にはならない。 はっきり言えば、屋上花壇はいらない。 花壇は地上の公園に作り、市民の広場としたらよい。合わせて真締川対岸まで整備すれば、西側への波及効果も期待できる。 新庁舎だけで完結させるのではなく、周辺への波及効果を生むことを目的に計画を考えてほしい。
【市】	市役所周辺の整備については、真締川公園・常盤通りだけでなく、市道栄町線及び、新天町につながる県道宇部港線も含めた検討を行っていきたい。具体的には来年度以降計画策定作業に入っていく。 屋上花壇については、ご意見を参考にしながら検討していきたい。
【委員】	市民委員会でも同じような意見が出た。ここから触手を伸ばしていくようにまちづくりが広がっていくことが期待されている。 すぐに効果が表れる処方箋がある訳ではないが、市民全体の課題であり、新庁舎がそのための起爆剤となればよいと思っている。
【委員】	広場のNo.について、「配置計画」と「広場計画」の整合性がとれていない。

【市】	修正する。
「建替計画」 「概算事業費」	
【委員】	約60億円の借入になると思われるが、20年返済で1年当たり約3億円の負担と考えると、そのために年度毎の事業を減らしていくのか、それとも税金を増やすのか。
【市】	財政健全化計画の取組みにより、市の財政面はかなり健全化してきており、新庁舎建設によって事業を減らしていくということではなく、全体的なバランスの中で考えていく。
【委員】	システム費用や什器購入費用の想定は、おおよそどれ位か。
【市】	システム費用の試算はしていないが、備品・引越代については約6.4億円を想定している。ただし、他市の事例を参考にしたおおよかな試算であり、今後精査していく。
【委員】	設備のシステムを決めるときには、イニシャルコストだけでなく、ランニングコストを含めた比較をしていただきたい。 イニシャルだけ見ると高くても10年後までのランニングコストを含めて考えると経済的というものもあるため、トータルできちんと比較した上で判断してほしいし、できればその判断の根拠を市民に開示していただきたい。
【市】	イニシャルコスト・ランニングコストを含めてトータルで比較検討していき、整理した上で皆さんにも示していきたい。
【委員】	市民の将来負担、収支予測がある程度示されれば。全体で100数十億かかると言われるよりは、理解しやすく安心できるのではないか。
【委員】	市民委員会でも心配の声はあった。 人口が減り税収が落ちるのは確実と思われる中、建設費用をどうやって返していくのかという心配に対して、将来負担の予測を示すことで「そうでもないんだな」と少しでも安心してもらえるような資料を公開してもらえるとよい。
【市】	貴重なご意見をいただいたので検討していきたい。

3. その他

【市】 今後のスケジュールについて説明

～質疑応答～（以下、要約）

【委員】	今日は、かなり重要な意見が出されたと思う。 このうち、すぐに反映可能なものとパブコメの意見と合わせて検討し判断するものの区別を整理して、議事録と共に示していただきたい。
【委員】	議事録については、遅くともパブコメまでにはHPで公表してほしい。 協議会の議論も踏まえた上で市民が判断し意見を出せるようにしていただきたい。
【市】	そのように対応する。